

令和4年度 山形県立米沢工業高等学校・全日制的課程 学校評価書（自己評価・学校関係者評価）

学校教育目標		「健康で心豊かな、創造力とたくましい実践力のある工業技術者の育成」	
全日制	生徒に育む 資質・能力 (米工の ABC)	A : Actions speak louder than words たくましい実践力	
		B : Behavior 健康で心豊かな人間性	
		C : Courage & Creativity 新たな時代を担う豊かな創造力	
学校経営	(1) 募集定員の充足【全日制200名、専攻科10名】 (2) 専攻科魅力化の検討 (3) 米沢産業高校(仮称)開校整備委員会運営 (4) 働き方改革の推進 (5) 教師の研修機会の確保 (6) 学校いじめ防止基本方針の履行 (7) 学校部活動基本方針の履行		

達成度	A : 達成
	B : 概ね達成
	C : やや不十分
	D : 不十分

課程	生徒に身に付けさせたい力	評価項目	今年度の達成状況	達成度	次年度に向けた改善策	学校関係者評価
全日制	A たくましい実践力	動労体験学習などを通して、働くことの大切さを理解させ協力して活動できる生徒を育成する。	雪囲い撤去および設置作業は類の指導の下、生徒は安全かつスムーズに取り組んだ。自転車小屋のペンキ塗り作業は継続的にする必要がある。	B	地域や社会の一員としての位置づけ確認	○各目標、課題を明確にし活動している様子がうかがえる。コミュニケーション能力を意識されている印象を受けた。 ○健康の大切さや将来の自身の健康を意識させるような様々な工夫がされている。 ○全校課題研究発表会への取り組みが、この3項目に対し大変有効だと受けとめています。想像力や実践力はもとより、チームワークで取り組むことで心豊かな人間性も大いに育むことにつながるように思います。 ○生徒全員の面談は非常に良いことだと思います。悩みなど全くないような生徒が意外な悩みを持っていることがよくあります。体調を含めて、見逃さないことが大事だと思います。 ○3年生は3年間のコロナ禍と重なった学年であり、リモートなどのコミュニケーションは近未来の想定されるメタバースなどICT人材の礎になるとプラスに考えます。
		シラバスや年間学習指導計画を作成・活用して、計画的に各教科・科目の学習目標が達成できるよう呼びかける。	来年度に向けたシラバス作成や学習評価に関するアンケートから実態に合わせた評価方法を検討・作成中である。 「学習の評価はテストの得点だけでなく総合的に行われている。」生徒80%	B	評価方法の確立	
		社会参加活動やボランティア活動を通して、人々とのつながりを大切にしながら社会の一員として社会貢献できる力を育む。	上杉まつりや雪灯籠まつり、道の駅への協力などのボランティア活動を行うことができた。「今年度何回ボランティアをしたか。」生徒74%	B	SDGsとの結び付け	
		就職進路対策試験の実施。進学受験先に応じた個別指導を実施し就職内定100%。進学希望者合格100%を目指す。	3年生は8月末に地元企業採用担当の方より面接練習を2回行った。7・12月に進学講習を実施。就職内定100%。進学希望合格100%達成。	B	面接指導の工夫・研究	
		日常の清掃活動等を通じて、快適な学習環境の整備・保全を図らせる。	全職員の協力を得ながら、環境整備が図られている。	B	次年度も継続	
	B 健康で心豊かな人間性	QJ検査の結果の検討会を実施し、表面化しない生徒が抱える問題の気づきや学級経営の一助となるようにする。	SGを交えながらQJ検査の分析会を行った。様々な意見交換ができた。 「生徒の話をよく聞いて、親身に相談にのってくれる先生がいる。」生徒80%	A	全局面談の実施、フォロー体制	
		全クラスのLHRに年3回以上「キャリアの時間」を設定し、年度目標、学期目標と振り返りの実施指導をする。	5,7,12月実施済み(1,2年は3月に4回目を実施予定)。今年度は基礎力診断テスト結果配布も必要となり時間不足するケースが見受けられたが、クラス担任の指導のもと継続的な運用が図られるようになってきた。基礎力診断テスト分析会を実施。 「自分の目標を掲げ、目標達成のため努力している。」生徒81%	C	「キャリア探究」との連動 個別の生徒の学習改善につなげる取り組みにする。	
		特別支援に係る指導体制を充実させ、学習上・生活上の困難の改善を支援する。	通級指導員の先生方に面談や支援策を講じていただき、一定の効果を挙げている。	B	関係教職員間での支援策の共有	
		効果的な感染症対策を講じて、感染リスクの低減に努めさせる。	HR教室にCO2濃度測定器を導入し、効果的に運用できている。	B	寒冷時の換気の習慣化	
		教護会と連携し、生徒の健全育成を図り新たな時代を生き抜く生徒を育成する。	コロナ感染拡大のため、限定的ではあるが生活・広報委員会などで取組に努めた。	B	組織や取り組み等、新高校への移行に向け検討	
C 新たな時代を担う豊かな創造力	ICT整備委員会と連携し、ICT及び一人一台端末の効果的な活用方法の研究とe-教務の運用・整備を行う。	生徒及び職員に一人一台PCが導入され、多くの授業で活用している状況であり、探究的な学びの一助になっている。	B	活用方法の共有し、ICTの適切な活用方法の研究		
	部活動等への意欲的な活動を推進し学校全体を活性化する。更に全国大会や東北大会等への出場及び入賞を目指す。	インターハイ入賞、東北大会優勝 「部活動に積極的に取り組んでいる。」生徒79%	A	米商との交流を部活動単位でも進め活動を活性化。		
	キャリア教育総合実践プログラムを履行し、適切なタイミングを見極め効果的に進路指導できるよう努める。	企業見学制限は緩和されたが継続的に配慮が必要である。インターシップは6月に予定通り実施され、企業の求人情報を把握することができた。 「学校は、進路についての情報をよく知らせてくれる。」生徒90%	B	地域コンソーシアムとの連携		
	コンソーシアムや企業と連携し最先端技術や高度な技術の習得を行う。	キャリア探究で、外部の方から多くのことを学ぶことができた。 「専門科目は、将来の進路にとって大切だと思うし興味がある。」生徒89%	B	キャリア探究の体制づくり		
学校経営	評価項目	今年度の達成状況	達成度	次年度に向けた改善策	学校関係者評価	
経営の重点	一斉メールの配信やホームページの更新により、タイムリーで的確な情報発信を図る。	さくら連絡網や学校一斉メールは適切に行われた。学校評価アンケートなどに、さくら連絡網を使用して利用の拡大を図った。 「一斉メールの配信があり役立っている。」保護者92%	C	HPなどでの情報発信力を強化。さくら連絡網に一本化。		
	米沢産業高校(仮称)教育基本計画に係わり、校外外と連携をしながら新しい学校に相応しいカリキュラムとなるよう検討を行う。	コロナ禍で停滞気味のところはあっても、概ね予定通り進めることができています。	B	新しい学校に相応しいカリキュラムづくり		
	①「いじめは絶対に許さない」、「いじめは卑怯な行為である」、「いじめはどの子どもにも学校でも起こりうる」との共通認識を持ち、いじめから生徒を守るとともに、いじめを認知した場合は全教職員の共通理解のもと適切な対応をする。	今年度いじめ認知1件「命の大切さや人権を尊重し、いじめ防止に積極的に取り組んでいる。」生徒88%	B	全局面談などによる未然防止と積極的な認知		
	特別支援に関する教員への研修機会を提供し、専門性の向上を図る。	外部指導員を招聘して授業参観と生徒分析を実施した。職員研修会を実施したが、研修内容の焦点化に課題が残った。	C	全職員での共有の場の設定		

課程	育てたい人材	評価項目	今年度の達成状況	達成度	次年度に向けた改善策	学校関係者評価
専攻科	地域が求める高度な技術を身に付けた実践力のある工業技術者の育成	地域コンソーシアムや地区内外の団体との連携を強化し、産業界と一体となった社会に開かれた教育課程の開発・実践を図る。また、専攻科生を対象とした企業説明会・面談会等を外部団体と連携して実施する。	県教委が策定した「専攻科活性化・魅力化の方向性～WGによる検討まとめ～」を受け、今年度の具体的な取組みとして、①新たな学校紹介パンフレット、②入学者選抜方法の検討・改善、③令和6年度入学生の教育課程の開発を滞りなく実施することができた。	B	教育課程などについて検討中	○産業界と一体となれるようなつながりをこれからも大切にしてください。 ○どのような教育活動が展開されているか認知が弱いように思います。PRが必要。
		入学者増につなげるため広報・情報発信の強化を図る。各種展示会やイベント、コンテスト等への積極的な参加及び出展を行う。	HP、Twitter、instagramなどで日々の学習の状況など広報活動を行っている。Sendai Micro Maker Faire!に出展するなど積極的な取り組みができた。CVG東北において奨励賞を受賞した。R4入学者4名	B	入学者増への取り組み	